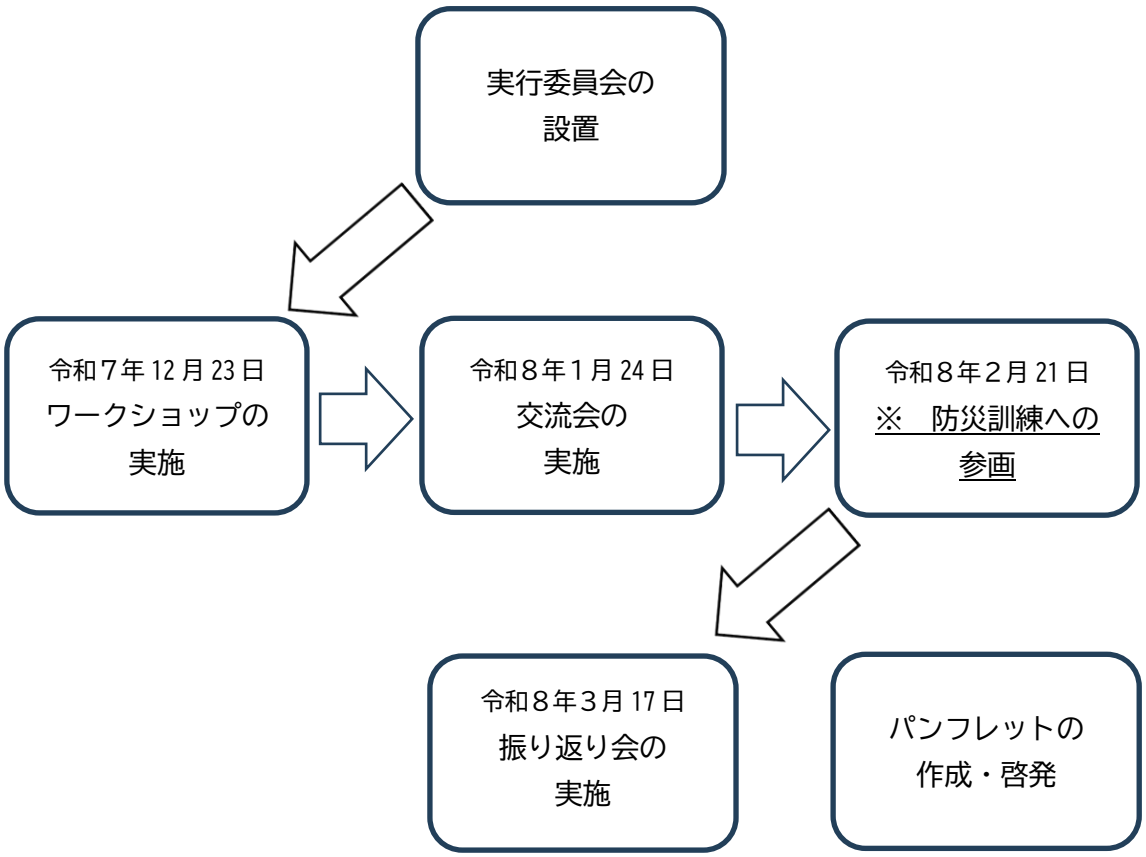
資料3

避難行動要支援者の避難支援体制づくりに向けた啓発等事業　活動報告

1　令和７年度の実施内容



※　防災訓練への参画にかかる経緯

当初、キューズモール尼崎で垂直避難訓練を実施する予定で、調整を進めていましたが、最終段階になって、キューズモール尼崎の施設管理部門から、「利用者がいる施設内で垂直避難訓練を実施することは安全面での課題がある。」、「バックヤードに関係者以外が入ることは管理体制の面で課題がある。」との見解が示され、垂直避難訓練を実施することができなくなりました。

そのため、当初の予定を変更しようと避難訓練の調整を進めていたところ、小田地区内で地域主催の防災訓練の実施の予定があり、主催団体の好意で参加が可能となりましたので、避難行動要支援者の避難支援について理解につながる講話や垂直避難訓練を地域の防災訓練の中で実施しました。

２　実行委員会の設置について

⑴　目的

避難行動要支援者の避難支援についての理解や啓発方法等を検討するため、多様な立場の人々が集まり、顔の見える関係性を構築し、企画の方向性や進捗の確認を行うこと

⑵　参画依頼団体

ア　当事者団体

尼崎市手をつなぐ育成会、尼崎市肢体不自由児者父母の会、あまかれん

イ　福祉施設

社会福祉法人福成会あいあい、介護老人保健施設ローランド、株式会社ウェルネスフリースクール

ウ　大学

関西国際大学

エ　地域団体等

小田地域課、社協小田むずぶグループ、潮江連協、学生団体YCA

⑶　内容

市の担当者とともに、関係者にお声掛けを行い、事業内容や参加希望について、聞き取りを行いました。

その後、実行委員会参加者については、LINEオープンチャットをプラットフォームとして活用して交流を行うとともに、避難行動要支援者の避難支援についての理解や啓発方法等を検討するため、制作中のパンフレットに関する意見交換や各参画団体のイベント等の情報共有などの関係構築を図りました。

３　ワークショップの実施について

⑴　日時

令和７年12月23日（火）　１４：００～１６：００

⑵　場所

小田南生涯学習プラザ

⑶　参加者

９名

ア　当事者団体

尼崎市手をつなぐ育成会、尼崎市肢体不自由児者父母の会

イ　福祉施設

社会福祉法人福成会あいあい、株式会社ウェルネスフリースクール

ウ　地域団体等

小田地域課、潮江連協、学生団体YCA）

⑷　内容

ア　講演

①　講師

（一社）福祉防災コミュニティ協会認定講師　　前川　良栄　氏

※　重度知的障害がある当事者の親でもある防災士

②　テーマ

「みんなでたすかる防災　～大切にしたいモノ・コト・チエ～」

③　内容

・　災害対策基本法等の改正（２０２５年５月２８日）
・　過去の災害の状況
・　避難について
・　災害関連死の状況
・　受援力・地域での訓練について

イ　意見交換

①　テーマ

「災害時に直面すると考えられる課題」

②　課題（参加者の視点）

・　「避難行動」にかかる知識や情報伝達、つながり等
・　「避難生活」にかかる設備や受援、つながり等

⑸　参加者の気づき（意見など）

ア　当事者団体

・　情報から取り残される可能性のある方が多くいる。
・　設備や周囲への配慮から在宅避難を考えているが、避難生活に必要な物資や情報をどのように取りに行ったらよいかわからない。

イ　福祉施設

・　事業所のBCP作成を行っているが、実効性があるのか不安である。

ウ　地域団体等

・　被災経験がなく、防災の知識が少ないため、実災害に基づく行動を考えることが難しい。
・　避難行動要支援者に対して、どのような支援が必要かわからないため、声をかけるのをためらってしまう。
・　地域の担い手不足や繋がりの希薄化が深刻で、災害時にも課題となることを認識されていない。

４　交流会の実施について

⑴　日時

令和８年１月24日（土）　１０：００～１２：００

⑵　場所

関西国際大学

⑶　参加者

２２名

ア　当事者団体

尼崎市手をつなぐ育成会、尼崎市肢体不自由児者父母の会

イ　福祉施設

株式会社ウェルネスフリースクール

ウ　大学

関西国際大学、他府県の大学生

エ　地域団体等

小田地域課、学生団体YCA、消防局企画管理課（消防団担当）

⑷　内容

ア　事例検討

①　テーマ

「顔の見える関係になり、つながる。避難行動要支援者の避難について考える。」

②　事例

・　自分が「視覚障害があり、初めて訪れた駅で地震が発生した場合」

・　自分が「寝たきりの家族と自宅にいる際に地震が発生した場合」

③　視点

・　自身が感じる不安や想定される行動どのようなサポートを望むか考え、当事者からのフィードバックを受け、避難行動要支援者に対してどのように声掛けを行ったらよいか等の具体的なアクションとともに立場を超えた多様な視点の理解

・　つながりづくりのために日頃からできることの意見交換からの顔の見える関係性づくり

イ　パンフレット（案）

様々な人に対して、避難行動要支援者の避難支援についての理解や啓発のためのパンフレット（案）への意見出し

⑸　参加者の気づき（事後アンケートなど）

ア　当事者団体

・　イベントを通して障害のことを知ってもらえると嬉しい。

・　色んな立場の方と交流することで、多様化していることに気づいた。もっと大人数でできると嬉しい。

イ　福祉施設

・　様々な人の立場に立って考えることの難しさを感じた。地域で防災の活動をしている人と支援が必要な方が出会えるイベントに関わりたい。

ウ　大学

・　自分だったらどう思うか、相手の立場になって考えることで、様々な要支援者の状況を再認識することができた。

・　中国と日本では防災に対する考え方や対応方法が異なるということが学べた実際の取組を知りたい。

エ　地域団体等

・　要支援者に声掛けをするときに、「大丈夫ですか？」ではなく、「なにか私にできることはありますか？」と具体的にサポートしてほしい内容を言いやすい声掛けをする大切さを学んだ。

⑸　パンフレット（案）に対する意見

・　「尼崎らしさ」をデザインに入れて欲しい。

・　障害特性の説明や配慮の仕方を記載して欲しい。

・　見た目ではわからないが配慮や支援が必要な方も入れて欲しい。

・　どんな人が支援を必要としているか考えるきっかけのパンフレットにして欲しい。

・　避難行動要支援者を知った後にどうしたらよいのかわからないのではないか。

５　地域主催の防災訓練への参画について

⑴　日時

令和８年2月21日（土）　　１０：００～１２：００

⑵　場所

杭瀬小学校

⑶　参加者

３名（障害者とその家族等）

ア　当事者団体

尼崎市肢体不自由児者父母の会

⑷　内容

ア　参加者への講話

・　避難行動要支援者の視点について

・　備蓄について

イ　訓練

車いす利用者の垂直避難訓練

ウ　視点

・　地域住民への理解促進

・　複数人での支援の必要性

・　階段昇降時の留意点

⑸　参加者の気づき

・　車いすの階段昇降では、大人４人～５人が必要であることが分かり、改めて、避難支援時の人手が必要であることを実感することができました。

・　避難行動要支援者が、安心して避難することのできる環境づくりが必要だと感じました。

６　振り返り会について

⑴　日時

令和８年３月１７日（水）　１０：００～１１：００

⑵　場所

市役所北館３階重層的支援推進担当横会議室（zoom 参加によるハイブリット）

⑶　参加予定者

事業に参画いただいた実行委員の皆さま

※　後日、参加できない実行委員にはアンケートを実施

⑷　内容

・　ワークショップや交流会、地域防災訓練への参画などの振り返り、感想や課題

・　今後に向けた事業の改善点

7　啓発パンフレットについて

⑴　作成に向けたコンセプト

・　「避難行動要支援者」という言葉を知ってもらうこと

・　「自分ごと」として認識してもらうこと

⑵　作成過程

①　事務局にて原案の作成

②　交流会での意見交換

③　交流会での意見を反映したパンフレットの作成

⑶　交流会での意見の反映

・　「尼崎らしさ」をデザインに入れて欲しい。

⇒　市の風景をイラストとして取り入れ

・　どんな人が支援を必要としているか考えるきっかけのパンフレットにして欲しい。

・　見た目ではわからないが配慮や支援が必要な方も入れて欲しい。

⇒　見開き面で支援の必要な人を例示

・　障害特性の説明や配慮の仕方を記載して欲しい。

・　避難行動要支援者を知った後にどうしたらよいのかわからないのではないか。

⇒　紙面では反映できないため、ＱＲコードを挿入して、避難行動要支援者支援や防災の情報を発信しているインスタグラムに誘導

⑷　パンフレット（案）

別紙とおり（最終校正段階で令和８年３月中に印刷）

⑸　発信予定場所

・　当該法人の他のイベントでの配布

・　キューズモール尼崎等での設置

8　来年度に向けて

・　令和７年度の事業実施状況から当初の想定以上の工数が発生しており、受託事業規模を縮小（実行委員への情報伝達等については一部担当課に移管）

・　商業施設等（予定）の広場などで、「防災意識の向上」や「避難行動要支援者の避難支援への理解」を目的としたイベント（ブース設置を含む）等を年１回実施（交流会での意見を受け、商業施設等での啓発イベントを再考）

・　イベント開催に向けた２～３回の実行委員会による事前協議、実施後に１回の振り返り会（ハイブリット形式）での実施（イベント開催に向けた会議体は継続）

・　チラシやＳＮＳを活用し効果的なイベント実施に向けた情報発信（発信は継続）

・　随時、実行委員や参加者のつながりが継続するためのＳＮＳ等で情報発信（情報発信については担当課と連携）

以　上